

「はまなすの丘公園」には、180種もの植物が自生しています。何度か訪れて植物を観察していると、それぞれの植物の持つ個性や特徴に驚かされます。そんな植物の一面をピックアップしてご紹介しています。(写真提供：石狩浜定期観察の会)

はまなすの丘公園 9月のズームアップ



ハマエンドウ (マメ科)

日本では北海道から沖縄にかけて広く分布。海岸の砂浜や海岸付近の道ばたに生育する多年草です。茎の途中から花柄を伸ばし、紫色をした蝶形の立体的な花を何個かつけます。花の最盛

期は6月ですが、はまなすの丘公園では8月下旬から9月にも開花が目立ち、木道沿いに観察できます。初夏、葉をウリハムシモドキの幼虫に食べられて編目状化し、茶色く枯れたようになります。実はサヤに種子が入り、エンドウマメの実とそっくりです。

はまなすの丘公園 9月はコレを見つけよう



2013.9.18 はまなすの丘公園

ヒメイズイ (ユリ科)

5月から6月にかけて筒型の白い花を咲かせるヒメイズイは、9月に直径1センチほどの暗緑色をした実をつけます。さらに熟すると黒紫色にまでなります。



2013.9.4 はまなすの丘公園

メドハギ (マメ科)

痩せ地に多い多年草で全国に分布。木質化する茎をピンと伸ばし、はまなすの丘公園では管理道路脇によく見られます。茎に並んだ葉の脇に6ミリほどの蝶形の花を数個ずつつけます。



2013.9.4 はまなすの丘公園

エゾミソハギ (ミソハギ科)

湿地性の多年草で地下茎が伸びて群生します。花は紅紫色の花弁が6枚で直径1～2センチ。小さな花が密生して穂状になります。茎や葉やガクに微細な毛があります。



2013.9.4 はまなすの丘公園

コウボウムギ (カヤツリグサ科)

海水の飛沫や強風などの過酷な砂浜環境に順応した多年草の海浜植物。雌雄異株で写真は雌株で5月に開花します。雄株は枯れますが、雌株は秋に熟します。

石狩浜海浜植物保護センター 観察園便り Vol.5 2014.8.12

企画制作：いしかり海辺ファンクラブ

石狩浜海浜植物保護センターの裏に広がる観察園は、石狩浜に生育する植物を集めた植物園です。遊歩道に沿ってたくさんの種類の植物が植えられており、海浜植物をまとめて間近に親しめる穴場なのです。今回の取材は8月12日。台風11号の通過翌日でしたが、季節の移り変わりにしたがって着実に変化する、様々な植物の姿を見ることができました。あなたもぜひ観察園におでかけください。



MAP1 観察園の奥の湿原性植物のエリアではエゾミソハギが開花しています。



MAP2 ハマエンドウは6月の開花最盛期に続き、ふたたび花を咲かせ始めました。



MAP3 ハマボウフウは花が終わり、実への成熟過程ではいろいろな姿を見せてくれます。



MAP4 ノコギリソウの花は盛りを過ぎて枯れ色の群落がほとんどの中、まだ瑞々しい花もみられます。



MAP5 左はイソスミレの閉鎖花（開花せずに自家受粉）で、右はそれが結実したものの。



MAP6 2週間ほど前は一面に咲き誇っていたカセンソウ。遅咲きの花は可憐です。



MAP7 ハマヒルガオは花の時期を終えて実になってきました。



MAP8 オカヒジキの花は直径わずかに1ミリほど。中央の黄色い花、わかりますか？



MAP9 ハマナスの実はどんどん赤くなり、まるでミニトマトのよう。



MAP10 真っ赤に完熟したナワシロイチゴの実はルビーのようです。



MAP11 カシワの実（どんぐり）が成長して、緑色の姿を覗かせています。



MAP12 メドハギの花は長さ6mmほどの蝶形。葉の付け根につき、あまり目立ちません。



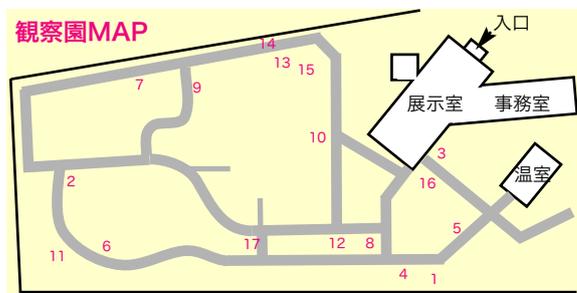
MAP13 ハマハタザオはさらに赤紫に変色し、やせ細ってきた印象ですね。



MAP14 鮮やかな黄色のコウゾリナ。直径1〜2センチほどのタンポポ状の花です。



MAP15 先月は園内を覆う様に咲き誇っていたエゾカワラナデシコも実へ向かっています。



MAP16 コウボウムギの雌株。これから茶色に変化してイガイガの果実になります。



MAP17 早くもヒロハクサフジの実の房が成長しています。



ワソポイントトピック ヒロハクサフジの花で活動中のハイロマルハナバチ。花には大事なパートナー。



- 開園期間 4/29～11/3
- 開園時間 9:00～17:00
- 定休日:毎週火曜(祝日開園翌日休)

